

開かれた議会へ 市民の皆様とともに

誰一人 取り残さないまちへ



桑名市長 伊藤 徳守



あけましておめでとうございます。皆様にはすがすがしい新年をお迎えることと心からお慶び申し上げます。昨年は一昨年から続く新型コロナウイルス感染症の影響で、感染対策や行動制限など日々新型コロナウイルスに怯えながら生活を余儀なくされました。市として皆様の生活を守るため、いち早く安心してコロナワクチンの接種ができるよう、桑名医師会、市内医療機関などと連携を取り接種体制を整えてまいりました。その結果、1・2回目の接種は、希望者に対して昨年中にほぼ接種し終えることができ、今後の3回目接種もスムーズに接種できるよう引き続き取り組んでまいります。

また、コロナの影響で大きな打撃を受けた市内事業者を支援するため、「ちよつとお得に、桑名で食わな！」キャンペーンや、PayPayと連携し

た経済対策を実施することで、合わせて約7.5億円の消費が喚起されました。

さて、本年は桑名の福祉が変わる年となります。4月に多世代共生型施設（仮称）福祉ヴィレッジ」が完成します。乳児から高齢者まで多世代が一つの場所で生活することで交流やコミュニケーションが促進される地域共生社会のモデルとなることが期待されます。さらに、福祉ヴィレッジに新たな保育所が開設されることで、今年4月から育休退園の廃止が実現されます。これまでは待機児童対策を重視して進めることができずでしたが、ようやく安心していただける体制が整います。

また、本年度中に海抜ゼロメートル地帯の伊曾島地区に大地震による津波などが発生した際に、一時的に避難できる津波避難誘導デッキが完成し、防災力の強化も図ってまいります。

これからも総合計画7つのビジョンである「命を守ることが最優先」をはじめ、福祉や子育て支援の推進、アフターコロナを見据えたにぎわいの創出や健全な財政基盤の構築などを堅実にを行い、「誰一人取り残さない」持続可能なまちづくりをしっかりと行ってまいりますので、引き続き市政に対しご支援、ご協力をお願いいたします。

桑名市議会議長

辻内 裕也



あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、令和4年の新年を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。さて、瞬間に全世界に拡大した新型コロナウイルス感染症は、新たな変異株が発見されるなど、収束のめどは立っていません。また、県内においても8月には連日過去最多の感染者数を更新するなど急速に拡大し、国から緊急事態宣言が发出されました。このような状況の中、市議会といしましては、生活、医療、中小企業などへの支援についての緊急要望を市に提出するとともに、必要な情報の共有を図るなど、市民の皆様が平穏な生活

を取り戻していただけるよう努力を重ねてまいりました。

一方、コロナ禍への対応の中で、これまでに経験をしたことのない生活様式は、社会の常識や人々の行動に大きな影響を与え、新しい働き方やライフスタイルが確立されつつあります。

ある調査によると回答者の71.2%が「自宅時間が増えた」と回答。また、家の中で新しく買い替えたものについて質問したところ、上位には「調理器具・食器」と食関連のアイテムが並びました。家事は夫婦で分担することが常識の時代ですが、料理だけは苦手意識を感じている男性は多いかもしれません。私もそんな一人でしたが、コロナ禍で自宅での時間が長くなり料理の面白さに目覚めることになりました。「禍転じて福となす」、逆風にさらされたからこそ見つけた福かもしれません。「人類の歴史は感染症との戦いの歴史」とも言われています。先人が感染症を克服するたびに進化を遂げたように、この災いを機に新しい福を創造する。

そんな一年であることを心より祈念し、年頭のご挨拶といたします。